

3年間を振り返って

つがる市に初めて来たのは2017年の7月です。当時は姉妹都市事業の真っ最中で、息つく暇なく最初の2週間があっという間に過ぎてしまいました。それからことが落ち着いて時間の感覚が通常に戻りましたが、やはり慣れというのは時間がかかるようで、ここでの生活が安定してきたのは意外と最近のことです。異国で生活する上で仕方ないことだと思えます。津軽弁や冬に頻繫に起こる吹雪など津軽地方特有のものが加わって、なおさら異文化の雰囲気が強かったです。

しかし、自分は都会嫌いですが大好きだということを考えると、つがる市でのゆったりとした生活は、た

つがる市での経験を胸に

市国際交流員のデパオリ・トーマスさんが任期を終え、つがる市を離任することになりました。トーマスさんは、着任以来「タック」の愛称で親しまれ、市の国際交流や国際化のために幅広く活躍されました。国際交流員として活動した3年間の思い出や、つがる市での生活、みなさまへのメッセージなどを紹介します。

ぶん自分の性格に合っていたと思います。主な業務である姉妹都市交流事業はコロナ禍で中止となっていました。バス市との学生交流事業は国際交流員としての最高の思い出になりました。一刻も早くコロナが終息して事業が再開するように願っています。

国際交流員として任期満了ということではありますが、まだ日本での生活を続けてみたいので日本国内にとどまります。つがる市での3年間の経験を生かせることもあれば、新しい経験もたくさん待っていると思います。市民の皆さん、3年間大変お世話になりました。次の国際交流員もよろしくお願いします。

タックが選んだ"名場面"ギャラリー



保育所訪問で地元紹介



バス市訪問に向け入国審査の練習



高山稲荷神社で通訳



バス市でロブスター漁を体験



国際交流フェアで和装



バス市でカヤックに挑戦



水耕栽培メロンの1作目試験が終了

「甘い」「おいしい」

評価は上々

※参考 つがるブランド認定メロンは糖度15度以上、プレミアムメロンは17度以上が要件の一つとなっています。



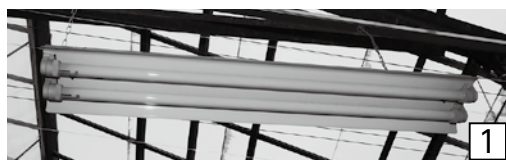
報告会でメロンを試食する参加者

市では、メロンの通年栽培を実現するため、柏ガラス温室で水耕栽培実証試験に取り組んでいます。7月31日に種をまいた水耕栽培メロンは、土で作るメロンよりも早い成長ぶりを見せ、10月13日には収穫がスタート。11月13日までに98個のメロンを収穫することができました。

採れたメロンの糖度は13度〜17度で、一番高いものは17・4度を記録（※）。10月27日に柏ロマン荘で開かれた1作目の報告会では、試食した関係者らが「甘い、おいしい」「きめが細かい」「見た目がきれい」と高く評価しました。



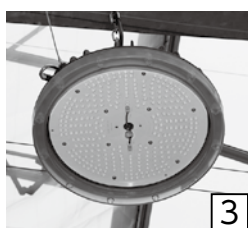
予想以上の出来栄え



1



2



3

2作目試験で重要な役割を担う

① 蛍光灯 ② メタルハライドランプ ③ LED

今年度2作目のメロンは、11月下旬に栽培を開始します。冬場の栽培で課題となるのが「日照不足をどう補うか」。

2作目の実証試験では、栽培槽4台のうち、3台にLED、メタルハライドランプ、蛍光灯と異なる照明を当て、もう1台を無灯とすることで、それぞれの補光効果を検証します。

また、ハウス内の室温は、温泉水熱を利用して18度を確保。湿度管理や病害虫の発生等にも注意を払いながら、来年3月の収穫を目指します。



冬場の課題は「日照不足」